



新潟県新潟市秋葉区 新津診療所屋上より撮影

中国北宋代の蘇東馳(1036~1101)は、^{そとうば}旁不忿(「かたはら痛い」の意)の事として次の項目を上げています。

- 1、**村漢有錢**(田舎っぺが銭を持っておる事)
- 2、**無才識者作好官**(才能も見識もないつまらぬ人間が好い役に納まりこんでおる事)
- 3、**善人被小人凌辱**(善い人がくだらぬ人間に見下され、辱められておる事)
- 4、**見初学人及第**(まだ勉強し始めのホヤホヤが、運良く難しい試験に及第して得々としておる事)
- 5、**俗夫有好妻**(つまらぬ男が好い女房を持っておる事)

さて最近、日本国内はもとより隣国中国や近隣諸国を見ているでもこうした言葉に該当する人達が多すぎる気がしませんでしょうか。

「俗夫有好妻」は、他に害を及ぼしませんし、「見初学人及第」までは、まだ可愛いレベルで済ませられるでしょうが、「村漢有錢」的人達を周りから見ていると、非常に浅薄で、滑稽に見えるものです。

かつてのバブル期の日本でも、こうした人達は多くいましたが、現在の中国はこの状況そのものの様に見えて仕方ありません。

中国バブルの崩壊は近未来必ず起こるでしょうし、彼らもいずれ気付く時が来ると思いますが、彼らが自制心を持つ為にも、自国中国固有の古典を紐解いて見る事を推奨したいところです。

また、「無才識者作好官」的人間は、どの国にも少なからずいるものですが、最近の日本はこれが顕著になってしまっている様な気がしてなりません。

小人跋扈(ばつこ)して国を亡ぼす前に当に「出(いで)よ龍馬」といった心境に有る人は多いのではないのでしょうか。

そして今日隣国中国の傍若無人の言動は、直接その実害を被る国のみならず、民度の高い国家国民の人達から見れば、正に「善人被小人凌辱」の現状である認識を共有出来るはずで

どの国にも国民の主権と領土を守る義務があり、ゆえに国益のためには対外的に主張してゆかねばならないこともありますが、自国の国益のためには歴史的事実もねじまげてしまう国家があるとすれば、それに毅然と正論を持って立ち向かう為の力(経済力・防衛力等)を持つのは、外交の鉄則だと思います。

「世間」という言葉が有ります。語意は「人が生活し、構成する現世社会。この世の中。」と広辞苑には書いてあります。国際社会という「世間」においては、日本国内の「世間」の論理は通用しない事が多いのが現実だと思います。表面では「仁」を唱え、本音では「利」で動くのが国際社会の「世間」であるとすれば、日本という国家が真に強い国へ立ち直るべく、若い人材の育成と国家としての力をつける為に、日本人は強い意志を持つべきではないのでしょうか。

「三樹」という言葉があります。

一年の計は穀を樹うるに如くはなく
十年の計は木を樹うるに如くはなく
終身の計は人を樹うるに如くはなく

我々日本人は今、まさに何をなすべきか真剣に考えて実践すべき時ではないのでしょうか。